

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS 合同分科会
SPARC 小委員会（第 22 期・第 1 回）

議事要旨

- 1 日時 平成 26 年 7 月 16 日 10:00-11:45
- 2 場所 東京大学理学部 1 号館 847 号室
- 3 出席者 佐藤薫、余田成男、塩谷雅人、藤原正智（佐藤以外 skype 参加）
オブザーバー 田口正和、河谷芳雄、宮崎和幸（skype 参加）
（計 7 名）

4 議題

- （1）第 22 期の日本の SPARC 活動のまとめ
- （2）次期国際 SPARC GA 開催の可能性について
- （3）今後の日本の SPARC 活動の方針について
- （4）その他

5 概要

議題 1 第 22 期の日本の SPARC 活動のまとめ

・2012 年 5 月、2013 年 5 月、2014 年 4 月の日本地球惑星科学連合（JpGU）の各連合大会において SPARC セッションを開催した。毎年 20 件以上の口頭およびポスターの発表の参加があった。

議題 2 次期国際 SPARC GA 開催の可能性について

・GA (General Assembly) はこれまで、1996 年オーストラリア、2000 年アルゼンチン、2004 年カナダ、2008 年イタリア、2014 年ニュージーランドで行われており、2018 年は東アジアでの開催が期待されている。これに対し、今回の 2015 年 1 月に行われる SPARC SSG ミーティングにおいて開催国として立候補することにした。

議題 3 今後の日本の SPARC 活動の方針について

・これまで春季に JpGU の連合大会で毎年 SPARC のセッションを設けてきたが、ほぼ同時期に開催される気象学会春季大会においても小さな中層大気のセッションを設けられることがあり、どちらかにまとめたほうがよいのではないかという問題提起がなされていた。大気化学コミュニティとの交流、超高層大気科学との交流、気象学会での中層大気科学の活動の見せ方などの議論を行った結果、気象学会と JpGU のどちらかに絞り、交互開催とすることで意見が一致した。

議題 4 その他

- ・ 学術会議における SPARC 小委員会の必要性について議論を行った。学術交流は気象学会や JpGU で行えるものの、今回のような GA 開催国として立候補するかなどの決定は、この小委員会で行う必要があり、これが失われるとこの機能を行う機関がなくなってしまう。今後も年に 1 度程度、学術だけでなく WCRP や Future Earth などにおける SPARC の寄与など、研究全体の方角性を議論する場として本小委員会を活用したい。また、今期は SPARC の SSG メンバーやプロジェクトリーダーを中心とした委員会構成であったが、次期以降は次世代の育成も視野に入れて積極的に若手委員を増やす方向で委員会構成を検討する。